

## くらし

# 五輪出場の先輩に刺激 県体協「未来のアスリート」のジュニア選手

2021.08.01 00:00



熱戦が続く東京五輪で、県勢選手が躍動している。出場14人のうち、バスケットボール男子の八村塁、馬場雄大、ハンドボール女子の佐々木春乃、サッカー女子の宝田沙織の4選手は、小学生時代に県体育協会の「未来のアスリート発掘事業」を修了した。現在参加している16期生の目に、先輩たちの活躍はどう映っているのか。2人のジュニア選手に聞いた。（青山晃太郎、田辺泉季）

地元のスポーツ少年団でサッカーに打ち込む富山市藤ノ木小6年の田村万美さんは、7月28日のサッカー女子の日本-チリをテレビで観戦した。宝田選手はこの試合が初先発で、センターバックとしてフル出場した。「ボールを受ける前に味方のフリーの選手の位置を確認し、すぐにパスを出している。上手だなと思った」

田村さんは4年生の時、同じクラスの友達に誘われたのがきっかけで競技を始めた。最初は男子のスポーツというイメージであまり興味はなかったが、チームメイトと打ち解け、競技のことを知るうちに「女子でもできる」と熱中するようになった。ポジションは右サイドで、ゴールにつながるパスを出すことが役割という。

未来のアスリート発掘事業には、母親の勧めで応募した。運動後の食事の取り方やメンタルの保ち方が勉強になるという。今後は学んだことを生かしながら、サッカー以外の競技にも挑戦するつもりだ。「富山で成長した宝田選手や八村選手たちが、海外で活躍しているのはすごい。私もスポーツを続けていきたい」とまっすぐな瞳で語った。

「八村選手や馬場選手の頑張りや強敵相手に点差をつめて戦っていた姿がすごかった」。26日のバスケットボール男子、日本-スペインを見た瀧本快光（かいり）君（立山中央小6年）は、目を輝かせる。

小学1年の時にバスケットボールを始めた。所属する立山町のクラブで週3回練習に励み、自宅前に設置したバスケットゴールで毎日シュートを打っている。NBAやBリーグの試合映像で、気に入ったプレーがあれば何度も見て、技術の習得につなげる。

未来のアスリート発掘事業に参加したのは、体力を付けるとともに、試合への向き合い方やけが防止を学びたかったからだ。バスケットボール以外の競技に打ち込む仲間が県内各地から集まり、一緒にトレーニングするのも楽しいという。

八村選手や馬場選手について「世界でプレーしている姿を見て誇らしい気持ち。自分も頑張ろうと思える」と刺激を受ける。目標はプロ選手になること。「いつか五輪に出て、世界のトッププレーヤーたちと対戦したい」と語った。



■運動に親しむ環境大切／富山大・福島准教授

県内の子どもの体力は全国的に見ても高いというデータがある。国の全国体カテストで、富山県の小5男女の体力合計点は調査が始まった08年度から19年度まで11回連続で全国平均を上回ってきた。一方、中2男子は平均以上を維持しているものの差は小さく、中2女子は平均を下回った年もある。専門家は「長く運動に親しめる環境づくりが必要」としている。

全国体カテストは小5と中2を対象に実施。握力や反復横跳び、50メートル走など8種目の記録を得点化した体力合計点で子どもたちの運動能力を把握・分析している。

中2で平均並みの水準となる理由について、富山大学の福島准教授は小中のスポーツ環境の違いを指摘する。小学生は学校の枠を越えたスポーツ少年団があるものの、中学は学校単位の部活動が主流。「大都市と比べて少子化が進む富山では、特に学校統合が進んでいない地域で部活動でのチームスポーツが成り立たなくなってきた」とみる。

また、中学生になると結果や成績がより重んじられるようになる。「勝利を追い求める雰囲気になると、頑張れる子と競技から離れてしまう子の二極化が進む」。部活だけでなく、地域で活動できるチームをつくり、結果よりも競技そのものを楽しめる環境を整えることが大切だという。

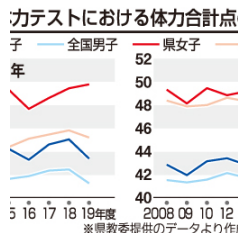
開催中の東京五輪では、スケートボード女子ストリートで銅メダルを獲得した16歳の中山楓奈選手の活躍に注目する。小中学生にとって中山選手は年齢も近い。「身近な人が活躍することで、自分にもできるんじゃないかという気持ちになる。富山の子どもたちに、とても良い影響を与えてくれたと思う」と話した。

■2700人超を育成

県体育協会の未来のアスリート発掘事業は、将来のスポーツ界を担う人材の育成を目指して2005年度に始まり、これまでに約2730人を育てた。

県内の小学5年生が対象で、書類選考や体力測定を経て指定する。1年3カ月かけて栄養面やけがの予防について学ぶほか、自分の身体を上手にコントロールするトレーニングも実施。走る、投げる、跳ぶなどの能力をバランス良く育む。

小学校高学年は神経系を高めやすい時期とされ、富山大人間発達科学部の福島洋樹准教授（スポーツ心理学）は「幼い頃から身体のいろいろな動かし方を知っていることが、大人になった時に生きてくる」と事業を評価している。



マイスクラップ
この記事のジャンルを追加

◀ ころを育む絵本レシ…
記事一覧
よろずご指南 生き方… ▶